

第3回 IT を活用した教育センターワークショップを終えて

昭和大学歯学部 スペシャルニーズ口腔医学講座
歯学教育学部門 片岡竜太

平成24年度に「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成プログラム」が文部科学省の大学間連携共同事業として採択されてから1年が経過しました。連携校である北海道医療大学ならびに岩手医科大学、各歯科医師会が連携して、超高齢社会で活躍できる歯科医師を養成するために1) 口腔乾燥症 2) 基礎疾患を有する患者の歯科診療 3) 病院における急性期チーム医療 4) 地域における歯科医療の4つのWGに分かれて教材を作成し、今年度3つの大学の正規の授業の中で実施しました。今回参加者の皆様にe-ラーニング教材や学生アンケートの結果をみていただき、来年度に向けて教材をどのように改良するか討議していただきました。

今回のワークショップには、南カリフォルニア大学からクラーク教授とマリガン教授に参加していただきました。お二人ともITを活用した授業を行っています。いかに学生に能力を身につけさせるかという絶え間ない工夫があることが参加者に伝わる講演をしていただきました。そこでクラーク教授が開発したVP（仮想患者システム）についても話をさせていただきました。今年度e-ラーニング教材で基礎知識について教育を受けた学生に、来年度、基礎知識を応用して臨床の場面で活用するための臨床推論能力を身につけさせるためにVPを活用するというWGが多くみられ、具体的な教材開発の計画を立てていただきました。

今回のワークショップではステークホルダーである歯科医師会の先生方にも活発なご意見をいただきました。将来、学生を引き受けていただく歯科医師会の先生方のご意見をいかに取り入れるかが、「超高齢社会に活躍できる歯科医師」を育てる本プロジェクトで重要であると考えております。本学では歯科医師会の先生方に直接学生を指導していただく地域連携歯科医療実習を1年生で実施していますが、今後3年生、5年生で必修化する予定です。この実習も通じて、様々な意見交換ができればと考えております。

また本ワークショップで3連携大学で授業運営をしていただいたIT企業と各大学の事務系職員の方々と連絡会を行い、今後連携してIT授業運用マニュアルを作成することになりました。教材作成と授業運用は良い授業を実施する際の2本柱となると思います。

最後になりましたが、参加していただいた各大学の皆様、歯科医師会の先生方、IT企業の方々、WSの運営にご尽力いただいた本学事務関係者、フォトセンター、ITを活用した教育センターの皆様に御礼申し上げます。